

11. 看護管理につながる、看護の質評価に必要な根拠あるデータを情報化する

鳥取大学医学部附属病院 藤井 春美

【実践の概要】

当院は今年で7対1入院基本料取得2年目となった。看護要員は増加し、周りからは看護サービス向上を期待されているが、実際に改善されている部分があってもなかなか評価として現れ、見えてこない。また、当院では目標管理にBSCを導入し4年が経過し、看護部目標と各病棟がベクトルをあわせ短期的目標達成への実践⁷は確立され、看護の質向上へとつなげているが、そのデータが看護の質評価という形で有効活用するまでにいたっていない現状がある。そこで、現場を詳細に把握できるデータの読み込みを行うことで、病棟個別の看護実践力の質評価が見える形を作り、看護部は病棟師長のやるべきこと、支援が必要なことを具体化させ、管理者を考えさせ行動に移す看護管理指導につなげることができると考えた。今回、実際にBSC導入後看護部でデータ管理されている情報と、各病棟でルチン業務として管理されている情報を融合させ、看護実践の質評価に必要な根拠あるデータを情報化することを目的とし、当院独自の看護の質評価指標基準項目を作成した。今後の看護管理に取り入れ、看護ケアの質改善、業務改善、人員配置等に有効活用していくことを最終目標とする。

【実行計画】

- 11月 看護の質評価に関する文献検索。
- 12月 病棟師長が質評価につなげるデータとしている項目を聞き取り調査する。
 - ①BSC導入後のKPI（重要業績評価指標）データ（平成17年度～19年度）を部署、委員会毎に一覧表にする。どの項目がルチン業務として継続しているかどうかを調査する。
 - ②看護部オーナー会議のインジケータデータ項目を（平成17年度～20年度）一覧表にする。
- 1月 *他院見学（東京慈恵会医科大学病院）により看護の質評価方法を学ぶ。

全体の質評価に関係する収集データの共通項目を洗い出し、看護部提示のデータと合わせる。オーナー会議データの利用方法を師長から聞き取り調査し、データの有効活用のあり方を検討する。
- 2月 師長会議にて質評価データを提示する。

ベッドコントロールに必要なデータの項目を分ける。
スタッフ支援、情報担当師長と検討し電子カルテ上から取れるデータを決定する。

【結果およびまとめ】

看護の質評価として年度別にBSCのKPI（重要業績評価指標）を一覧表にすることで、看護サービスの質を評価するデータを情報として保有していたことを確認できた。特に、BSCの内部プロセスは部署の看護サービス質向上のために重点的に実践した項目が示されており、目標管理が看護の質評価であることを再認識した。しかし、師長はオーナー会議のデータに関しては自セクションで評価に必要なものを選択し活用していたが、BSCで1年間実践し目標達成したKPIに関しては、ルチン業務として継続した指標としてデータを保管してない現状が明らかになった。

他施設訪問において、アウトカムマネジメントの実際の運用から、「①提示するデータは各看護部管理室の価値観で考える②アウトカムはどのように読み取るかが重要である。判断する、マネジメントする、数値の読み取り方の訓練であり、違うものが見える指標にしていく。」と助言を得た。このことから、院内で統一した評価を行うことから始めることが重要であると判断し、鳥大版としての質評価基準項目を作成した。方法としては、ドナベティアンの概念枠組みを用い、大項目を「システム・構造」、「プロセス」、「アウトカム」と3つに分け、それぞれに文献検索から得た情報と、当院のデータ項目で必要と判断したものを割りあてた。システム・構造は8項目、プロセスは3項目（BSC含む）、アウトカムは13項目とした。今年度内に師長会議にて説明を行う計画であったが、まず、副看護部長に看護部活

動に取り入れることを説明し理解を得た。データ収集に関しては、アウトカム指標のうち7項目は病院の経営企画室、情報担当師長、その他は、各病棟師長、スタッフ支援担当副部長、G R M、感染担当師長、皮膚・排泄ケア認定看護師、医療サービス課などと連携をとることとした。看護部内で、看護部組織の質評価指標データを可視化できる状況にすることは必要不可欠であり、部署の比較、分析を統一した指標で行うことの価値は高いといえる。データ管理を継続的に実施し、看護部のデータを読み取る力をつけ、そして現場（師長）の読み取る力を育成し、組織活性化につなげたい。評価指標項目は年々再考し確実なものにしていく予定である。

【評価】

- ・ 今年度は、鳥大病院質評価指標項目データ作成とデータ収集協力担当者の確定までとなった。
 - ・ 次年度からは、師長に説明し統一した質評価指標で各部署を分析していく。その、評価方法としては以下のような方法をとっていく。
1. 看護部オーナー会議にデータを提示し、看護部内で毎月データを読み取る。
 2. 目標管理評価時【中間・年度末】に質評価項目を分析する。各師長は自部署の目標管理に必要な問題点が見えたか、やるべきこと（改善事項）が明確になったか分析評価してもらう。
 3. 看護部として全体の実践力として評価できるかを中間・年度末で分析する。
 4. 年度末評価は1月に実施し、人員配置に利用する。
 5. 日々のベッドコントロールに必要なデータ項目を選択し実践で利用してみる。